



CSやってみよう!

裾野市教育委員会
学校教育課
令和3年11月10日

小西哲也氏
講演会

今、なぜコミュニティ・スクールなのか?

11月4日(木)に、コミュニティ・スクール講演会を開催しました。今回、講師としてお招きしたのは、文部科学省が委嘱する「CSマイスター」の小西 哲也 先生です。小西先生は、山口県の公立中学校の校長、山口県教育庁の教育次長等を歴任され、15年ほど前から山口県の学校をコミュニティ・スクールにすることを推進された方です。豊富なデータをもとに、子供たちの現状や社会の変化を捉え、「これからの子供たちに求められる力」「これからの学校に求められる役割」の視点から、『コミュニティ・スクールが持つ可能性や必要性』を示していただきました。これからの子供たちの学びや成長のためには、地域の大人との関わりが重要であることや、コミュニティ・スクールの充実が地域の活性化につながることを、実践例をもとにお話いただきました。



★主な講話内容★

- これまでの教育改革を経て、これからは「社会に開かれた教育課程」がキーワード!
- 「認知スキル」と「非認知スキル」の両方を身に付けたい。自尊心や協調性、信頼などの「非認知スキル」は、多様な人間と関わる中で身に付けられる。
- CSが充実するポイントは、地域と学校が50:50となる連携ができること。そのためには、大人が楽しむ活動を通して、つながることが大切である。

参加者の声

10年後、20年後の地域や日本をつくっていくためにCSが必要だとわかりました。これからは、地域で子供を育てていくのですね。私たち教員は、閉鎖的で柔軟さに欠けることがあるので、まず変えなければならないのは、私たちの意識かもしれません。地域のスペシャリストとの出会いで子供たちがどんな笑顔になるのか想像するとわくわくしてきました。(教職員)

「一緒にやりませんか。」その一言を地域の方が待っているのだわかりました。学校がやってもらう、力を借りるだけではなく、地域の方に楽しんでもらえるのがいいですね。何か楽しんでもらえるような、学校に来てもらえるような企画を考えてみたくなりました。(教職員)

学校で非認知スキルを高めるには限界があります。「人は人を浴びて人になる」とあったように、地域にどんどん入ってもらう必要があることを改めて理解できました。発想力を豊かにし、子供も大人も楽しくなるCSの活動に取り組みたいと思います。(教職員)

「この地で生まれ育ち、また何かの縁でこの地で生活できて本当によかった。」と言えるような子供や大人が一人でも多くなるようなCSにしたいと思いました。焦らず、じっくり取り組んでいきたいです。いつか、山口県へ「奇跡の学校ツアー」を企画して、訪ねたいですね。(地域の方)

一生学び続けるための6年間であり、3年間であり、出口教育でない教育のためには学校も地域も一緒に学び合っていくことが大切というお話を聞きながら、これからのそんな学校、地域の姿が目に見えそうでちょっとうれしくなりました。(地域の方)



小西哲也先生 執筆の本
風間書房 発行

「学校はだれのものか?」
探し求めていた答えがここに
あった。コミュニティ・スク
ールだからこそできた奇跡の
数々が紹介されています。

